



Heritage to the future

# 2026年3月期第2四半期 決算補足説明資料

Supplementary Materials for Financial Results

株式会社ヤギ | 東証スタンダード市場：7460

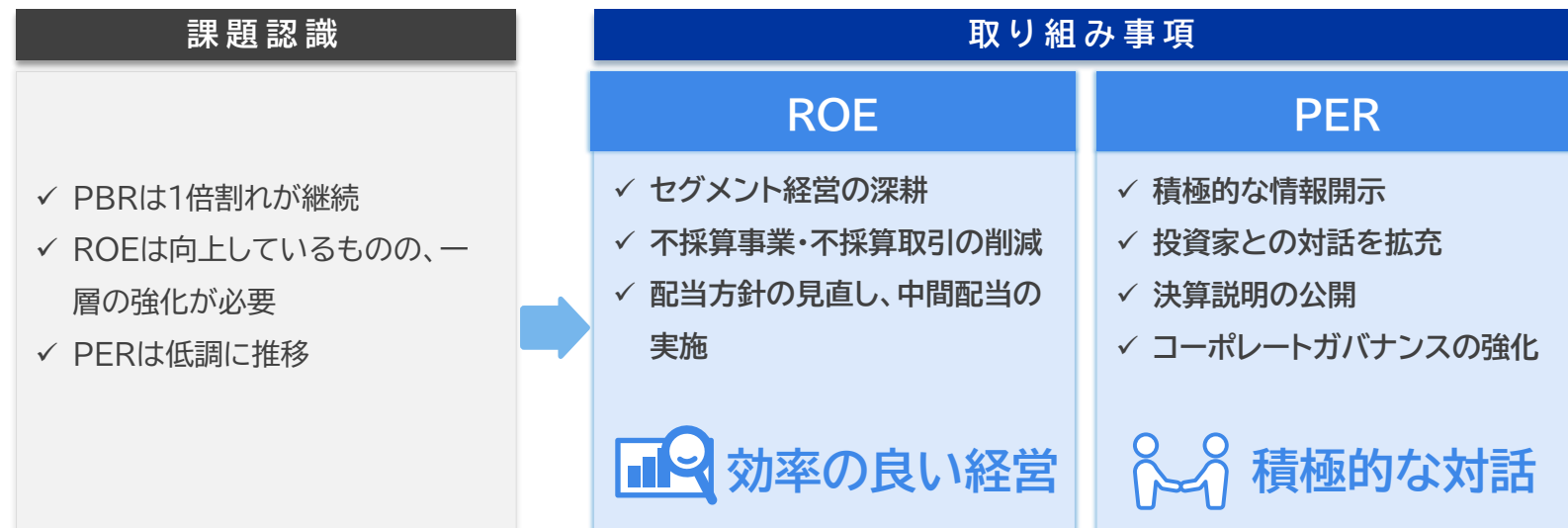
2025.11.10

つなぐのは世界、  
広げるのは希望。

Since 1893、素材にこだわる繊維商社

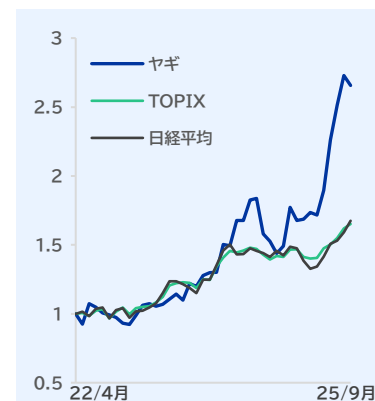
## 課題認識及び取り組み事項

ROEの改善とIR活動の強化により、資本効率の向上とPBRの改善を目指す。



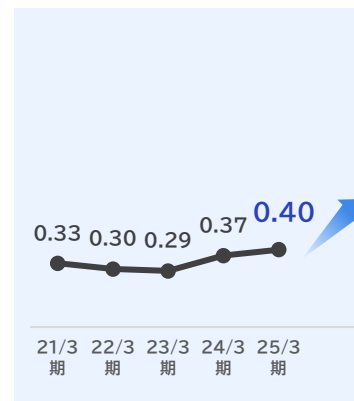
### 相対株価推移

(倍)



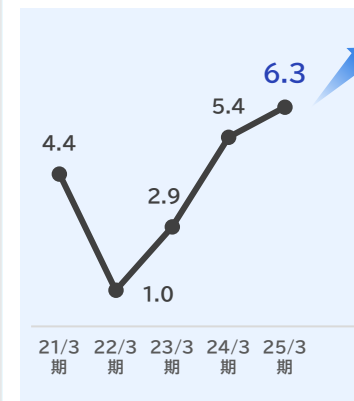
### PBR

(倍)



### ROE

(%)



### PER

(倍)



## 2026年3月期経営目標

売上高900億円、経常利益38億円を目標に、ROE6.0%以上の達成と株主還元強化を推進。

### 定量目標

売上高

**900**億円

経常利益

**38**億円

### 経営指標

ROE

**6.0**%以上

### 株主還元

配当性向

**35**%以上

1株当たり111円を予定  
(+21円)

**中間配当の実施**

1株当たり50円

## 決算業績サマリー

### 定量実績

#### 売上高

前年同期  
**393.0**億円



**395.4**億円  
(+0.6%)

#### 営業利益

前年同期  
**10.9**億円



**13.7**億円  
(+26.6%)

#### 経常利益

前年同期  
**10.8**億円



**17.1**億円  
(+58.6%)

#### 中間純利益

前年同期  
**7.1**億円



**16.7**億円  
(+134.4%)

### ポイント

- 米国の通商政策による影響に加え、金融資本市場の変動や物価上昇の継続など先行き不透明な状態が継続。
- 売上高は、マテリアル事業が減収となったが、アパレル事業、ブランド・リテール事業を中心に増収となり、全体として微増収で着地。
- 東京エリア 拠点集約プロジェクトがスタート。

# 目次

**01** 連結業績 P6-12

**02** セグメント別業績 P13-18

**03** 連結業績予想 P19-22

**04** 中期経営計画の取り組み P23-29

**05** 参考資料 P30-32

# 目次

## 01 連結業績

P6-12

## 02 セグメント別業績

P13-18

## 03 連結業績予想

P19-22

## 04 中期経営計画の取り組み

P23-29

## 05 参考資料

P30-32

## 決算業績

粗利の増加に加え、収益構造の改善が寄与し、各段階利益が大幅に増加。

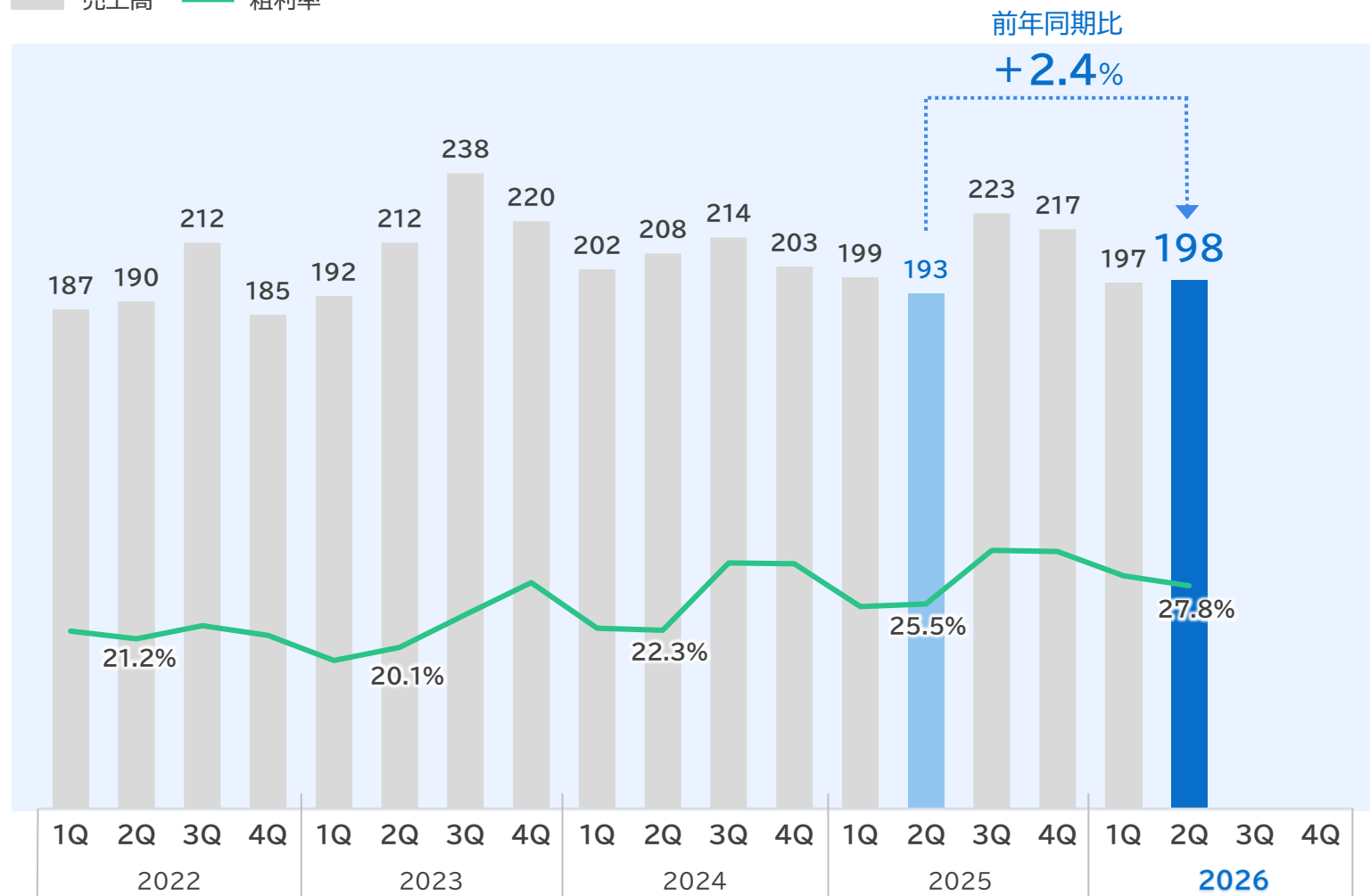
(億円)	2025/2Q	2026/2Q		
	実績	実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	393.0	395.4	+2.3	+0.6%
売上総利益 (率)	99.7 (25.4%)	112.4 (28.4%)	+12.7	+12.7%
営業利益 (率)	10.9 (2.8%)	13.7 (3.5%)	+2.8	+26.6%
経常利益 (率)	10.8 (2.8%)	17.1 (4.3%)	+6.3	+58.6%
親会社株主に帰属する 中間純利益 (率)	7.1 (1.8%)	16.7 (4.2%)	+9.6	+134.4%
1株当たり 中間純利益(円)	85.62	199.49	+113.87	+133.0%

## 売上高の推移

2Q単体でも売上高は、増収を達成。  
(前年同期比+2.4%)  
粗利率は、毎四半期継続して上昇中。

## 売上高 (億円)

■ 売上高    — 粗利率





## 経常利益の推移

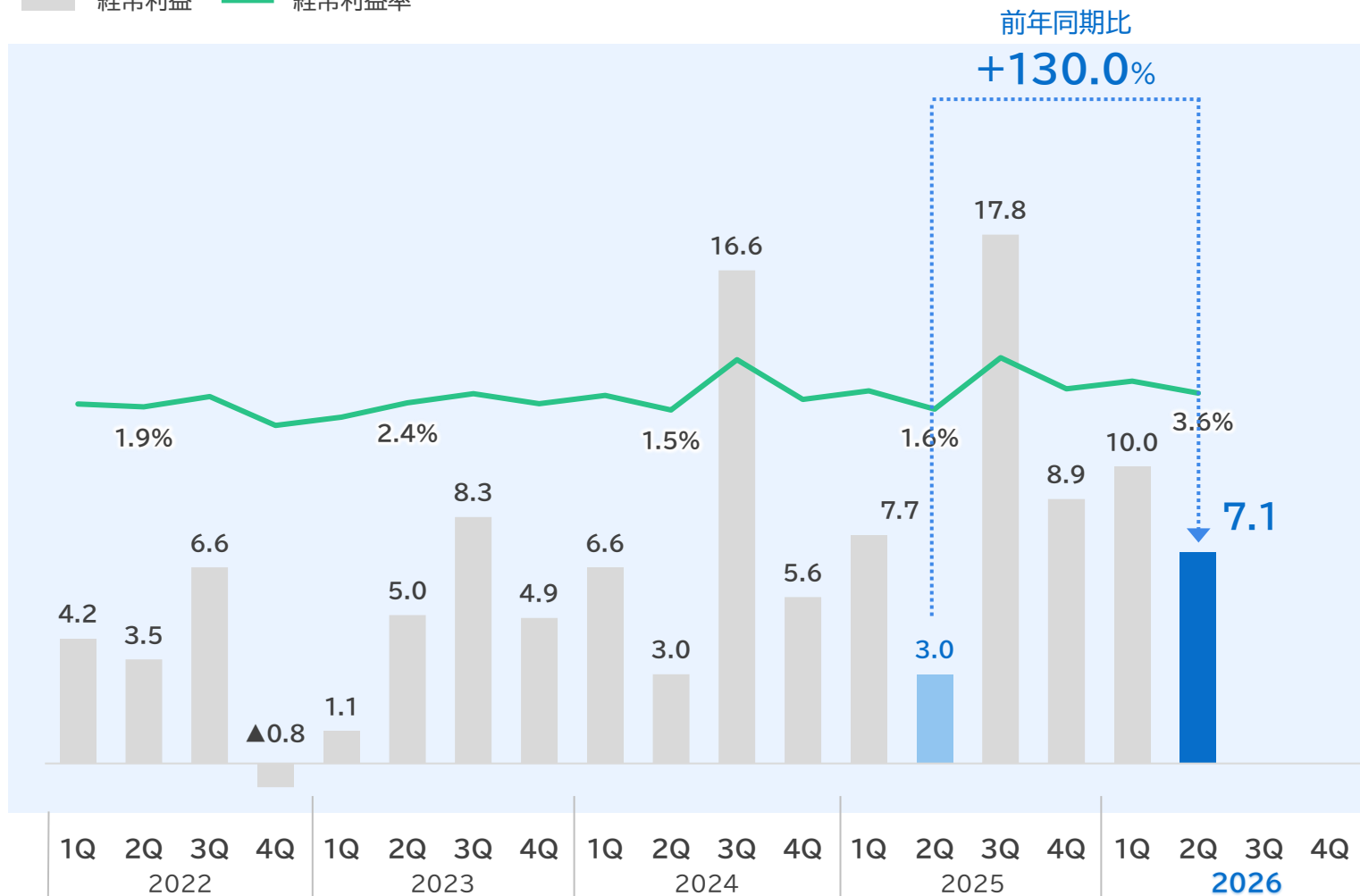
2Q単体でも経常利益は、大幅な増益を達成。

(前年同期比+130.0%)

経常利益率は、毎四半期継続して上昇中。

## 経常利益（億円）

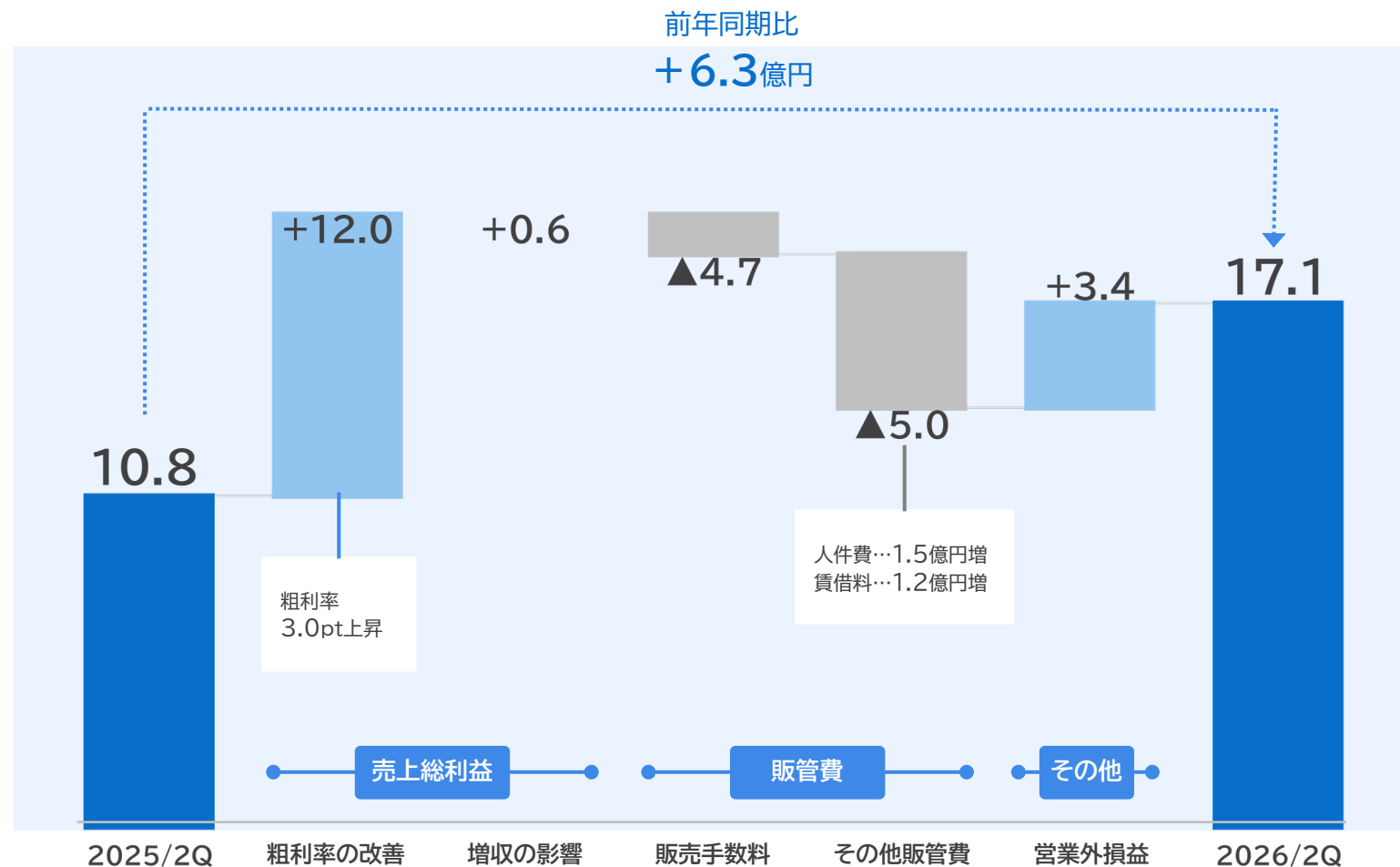
■ 経常利益    — 経常利益率



## 経常利益の増減要因

人材投資を中心に販管費は増加したものの、粗利率の改善など収益性の向上により、経常利益は大幅な増加。

## 経常利益（億円）

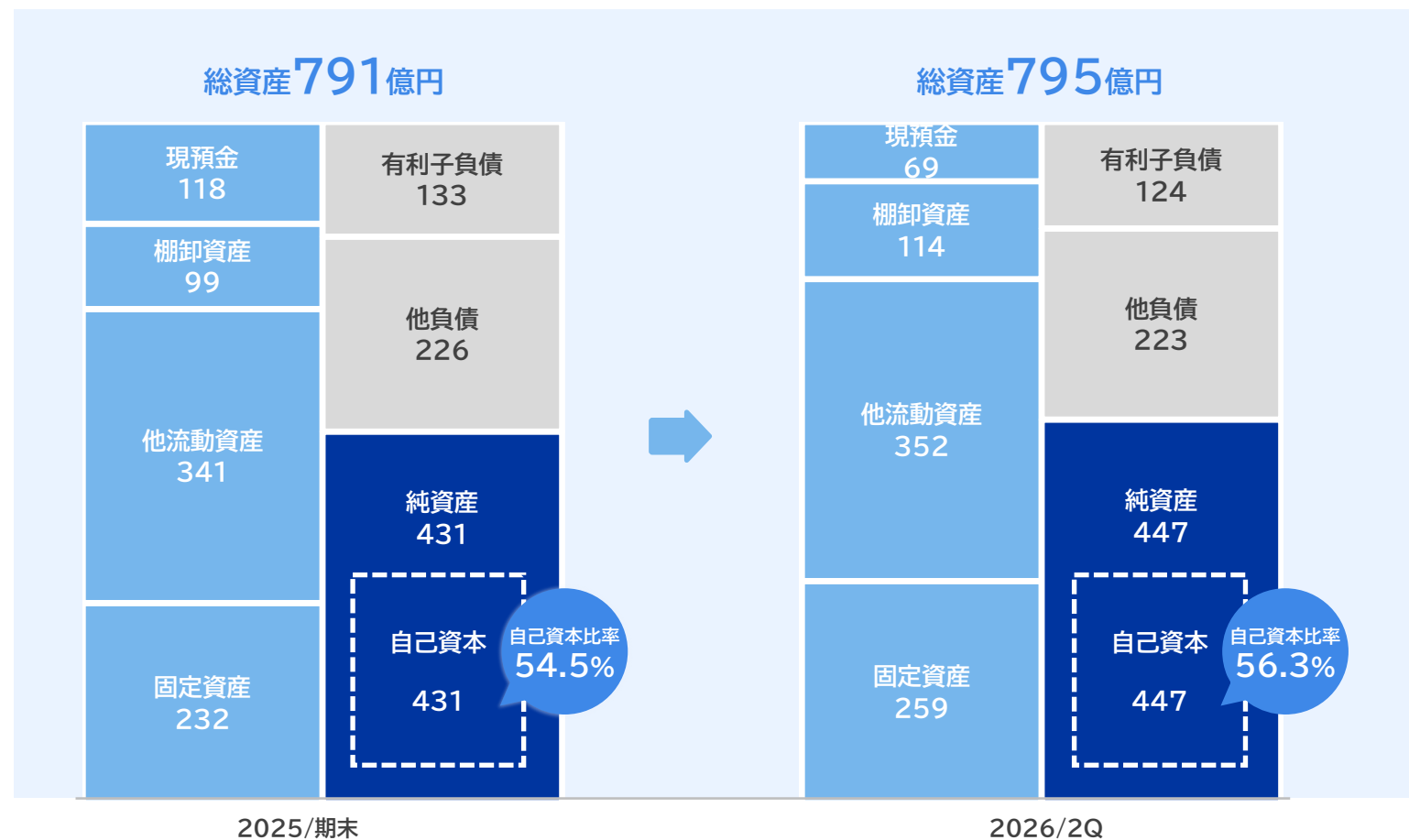


## B/Sの増減

棚卸資産や固定資産などが増加したものの、現預金の圧縮により総資産は3.7億円の増加に留めた。

自己資本比率は1.8pt改善し、財務健全性が向上。

## バランスシート（億円）



## C/F

営業C/F、投資C/Fともにマイナスとなり、フリーC/Fは前年同期比でほぼ横ばい。

財務C/Fは借入金の返済などにより資金流入が減少し、現金及び現金同等物は29.4億円減少。

## C/F (億円)

	2024/2Q	2025/2Q	
	実績	実績	前年同期比
			増減額
営業活動によるC/F	▲9.6	▲13.2	▲3.6
投資活動によるC/F	▲20.7	▲16.8	+3.9
フリーC/F	▲30.3	▲30.0	+0.3
財務活動によるC/F	+26.7	▲18.0	▲44.8
換算差額・連結範囲の変更に伴う増減額	+1.4	▲0.9	▲2.4
現金及び現金同等物	98.2	68.8	▲29.4

# 目次

## 01 連結業績

P6-12

## 02 セグメント別業績

P13-18

## 03 連結業績予想

P19-22

## 04 中期経営計画の取り組み

P23-29

## 05 参考資料

P30-32

## セグメント別サマリー

※セグメント利益は、各セグメントに直接関連する収益及び費用を計上しており、全社共通費（本社費用など）やセグメント間取引の消去などの調整額は、セグメント利益には含まれておりません。

※組織変更に伴い、第1四半期連結会計期間より「ライフスタイル事業」に含めていた一部の事業組織を「マテリアル事業」に、「マテリアル事業」に含めていた一部の事業組織を「アパレル事業」にそれぞれ変更しております。

このため、前第2四半期連結累計期間との比較については、変更後の区分方法に組み替えて比較を行っております。

詳細は、本日公表の「2026年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」をご覧ください。

## マテリアル

売上高 113.0億円 (▲10.6億円)

利益 3.4億円 (▲ 1.3億円)

減収減益

- ✓ 米国の通商政策の影響や取引先の生産・在庫調整などにより売上が減少
- ✓ サステナブル原料は好調

## ライフスタイル

売上高 24.5億円 (+0.1億円)

利益 2.9億円 (+0.3億円)

増収増益

- ✓ 化粧品雑貨事業は、主力販売先の在庫調整が長引き苦戦
- ✓ タオル事業は、市場環境は厳しいながら、需要は堅調に推移

## アパレル

売上高 241.4億円 (+12.0億円)

利益 22.4億円 (+ 6.3億円)

増収増益

- ✓ 猛暑対策商品が好調
- ✓ ユニフォーム事業の新規取り組みが増加
- ✓ 取引先とのリレーション強化によるロスの削減

## ブランドリテール

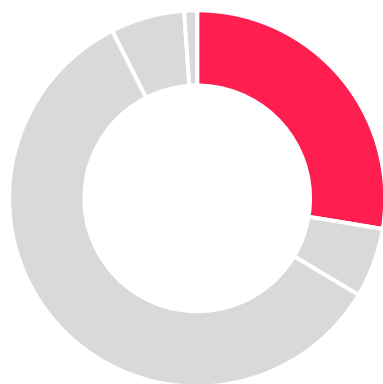
売上高 26.0億円 (+5.0億円)

利益 ▲7.0億円 (+0.7億円)

増収増益

- ✓ 新規店舗が売上に貢献
- ✓ 春夏商材におけるMD（マーチャンダイジング）が奏功
- ✓ 来店施策が奏功し来店客数が増加

## マテリアル

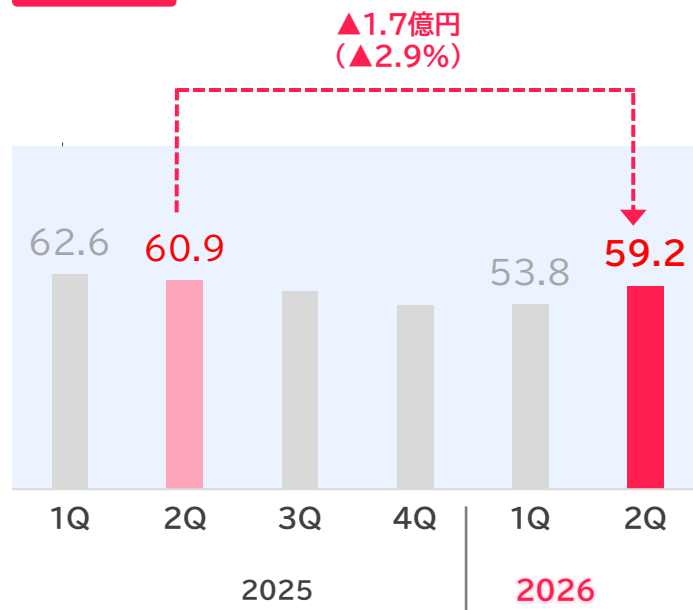


### 方針

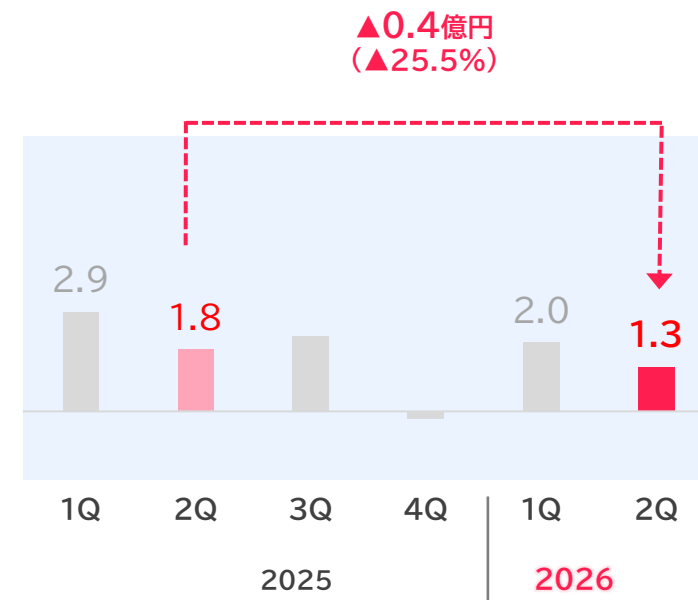
エンドユーザーを意識した原料・生地の開発と販売をグローバルに展開する

- 「UNITO project」の推進による原料を軸としたテキスタイルの開発と販売
- 差別化原料を武器とした新規商品開発と拡販
- 産地ビジネスの改革
- 海外市場の開拓と拡大

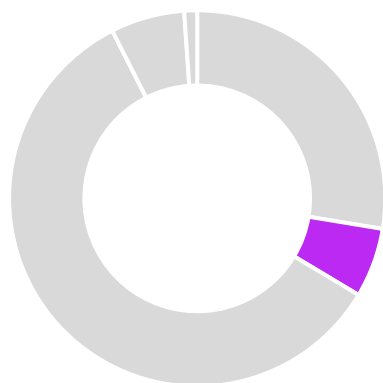
### 売上高



### 利益



## ライフスタイル



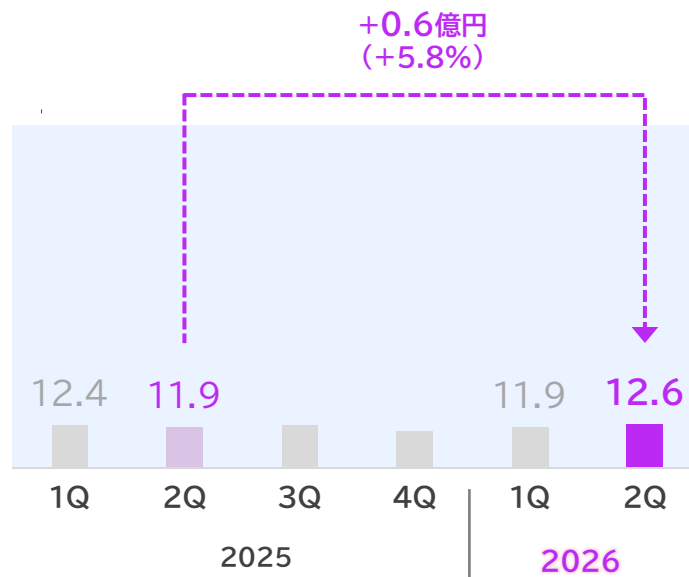
売上高構成比  
**6.0%**

### 方針

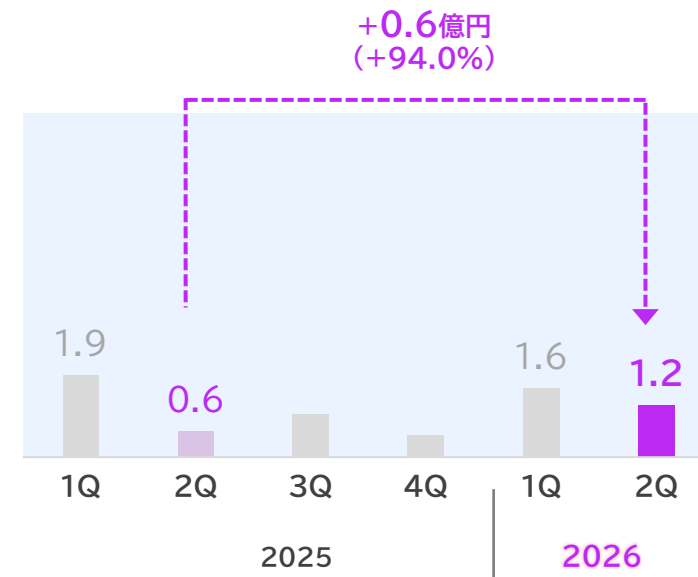
### 生産基盤の拡充と事業領域の拡大

- 国内外の生産基盤の拡充
- 生産効率の向上
- 事業領域拡大のための企画力強化

### 売上高

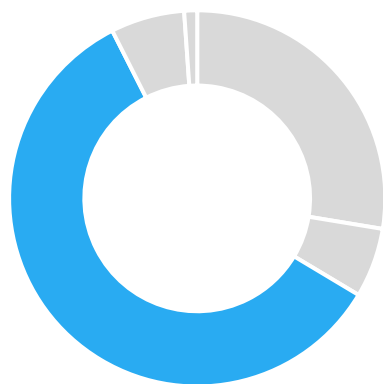


### 利益





## アパレル



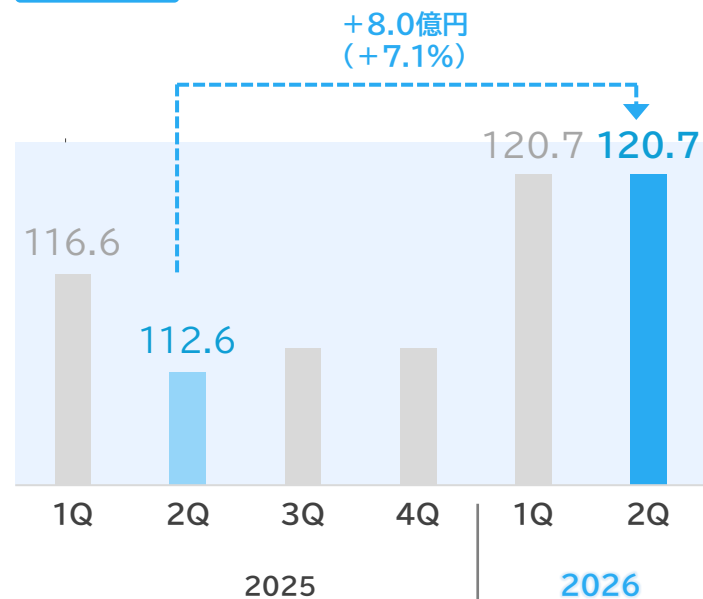
売上高構成比  
**59.0%**

### 方針

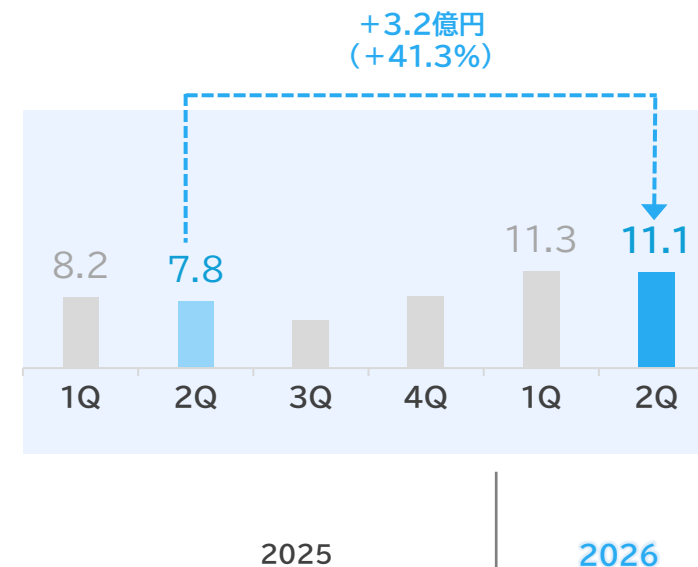
### 攻めの事業戦略で売上を拡大

- 販売チャネル別の成長施策による売上拡大
- 新規領域への挑戦と体制強化による中長期的成長の実現
- 重点領域への選択と集中及び販売体制の強化
- 海外販売の拡大とパートナーシップ強化

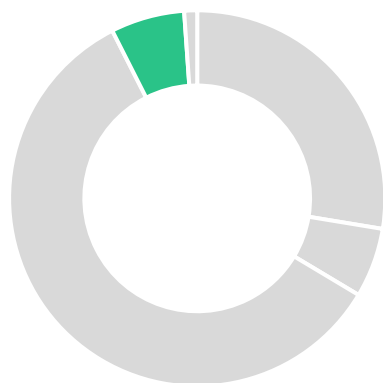
### 売上高



### 利益



## ブランド・リテール



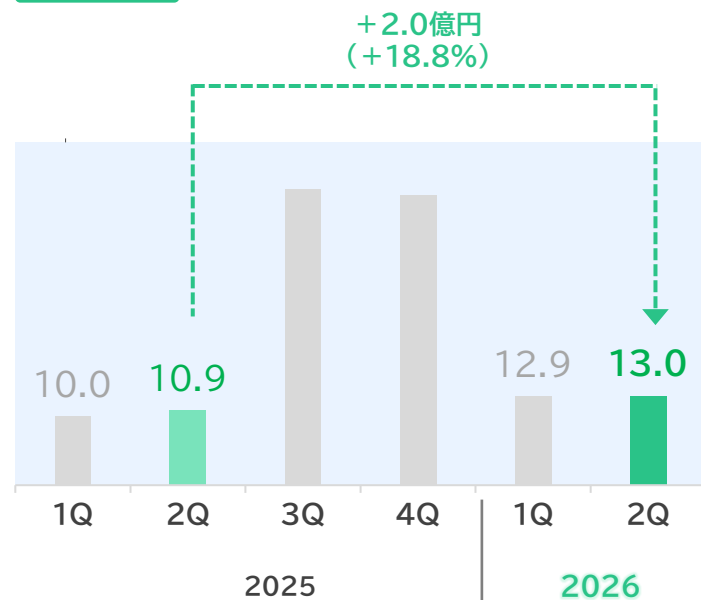
売上高構成比  
**6.3%**

### 方針

ヤギグループの次代を担う中核事業へ

- グローバル展開とブランド拡大の推進
- 国内店舗戦略の強化と効率化
- 組織体制と運営基盤の強化

### 売上高



### 利益



# 目次

**01** 連結業績 P6-12

**02** セグメント別業績 P13-18

**03** 連結業績予想 P19-22

**04** 中期経営計画の取り組み P23-29

**05** 参考資料 P30-32

## 進捗

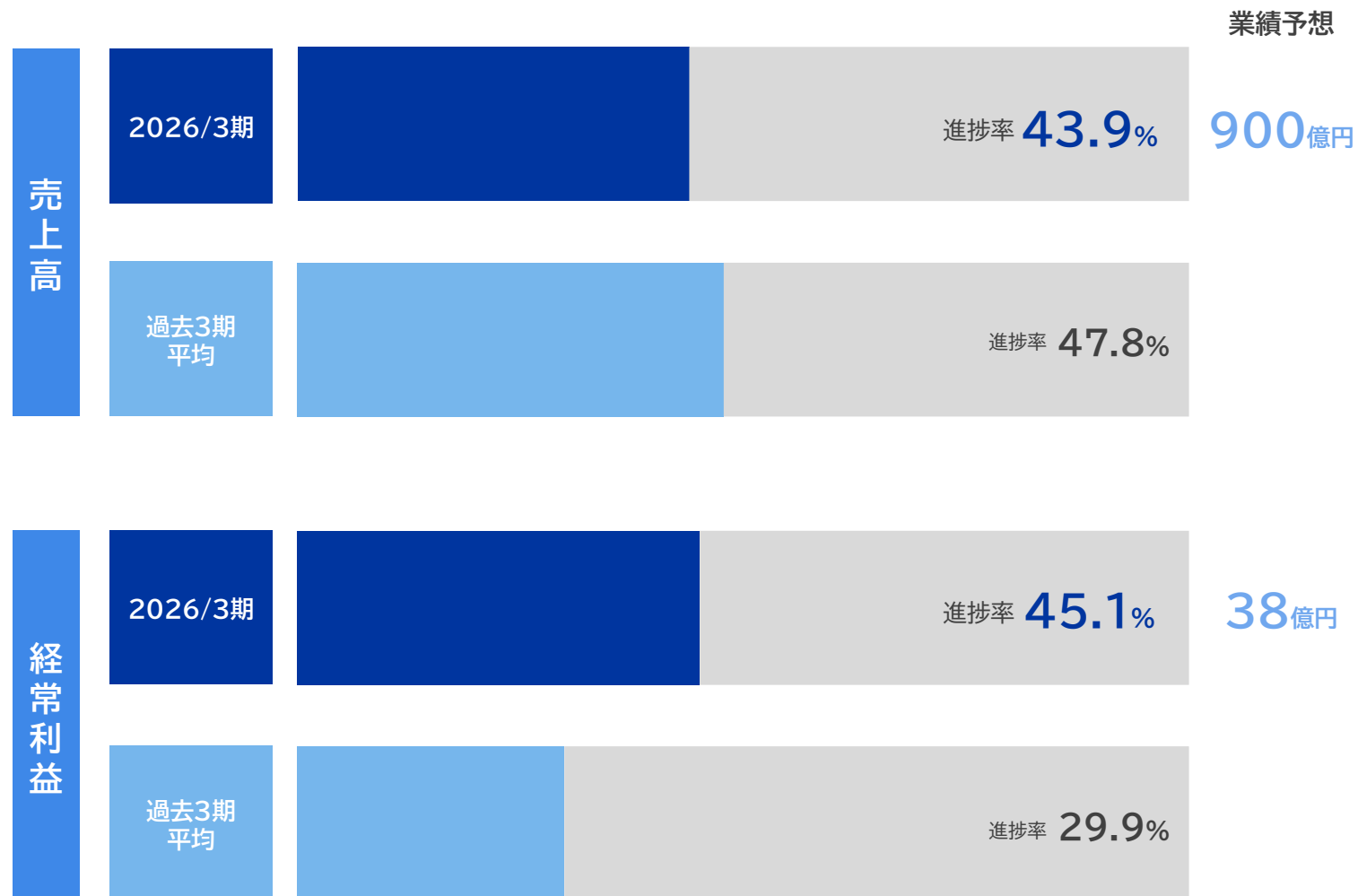
中計最終年度として、持続的成長に向けた戦略的投資を進めながら上期を順調に折り返し。

主要施策はおおむね計画通りに進捗しており、通期目標の達成に向けて着実に推移。

(億円)	2026/2Q	2026/通期	
	実績	予想	進捗率
売上高	395.4	900.0	43.9%
営業利益	13.7	36.0	38.3%
経常利益	17.1	38.0	45.1%
親会社株主に帰属する 中間純利益	16.7	26.5	63.2%
ROE	—	6.0%以上	—

## 進捗

売上高は過去3期平均をやや下回るものの、経常利益は大きく上回り、堅調に推移。



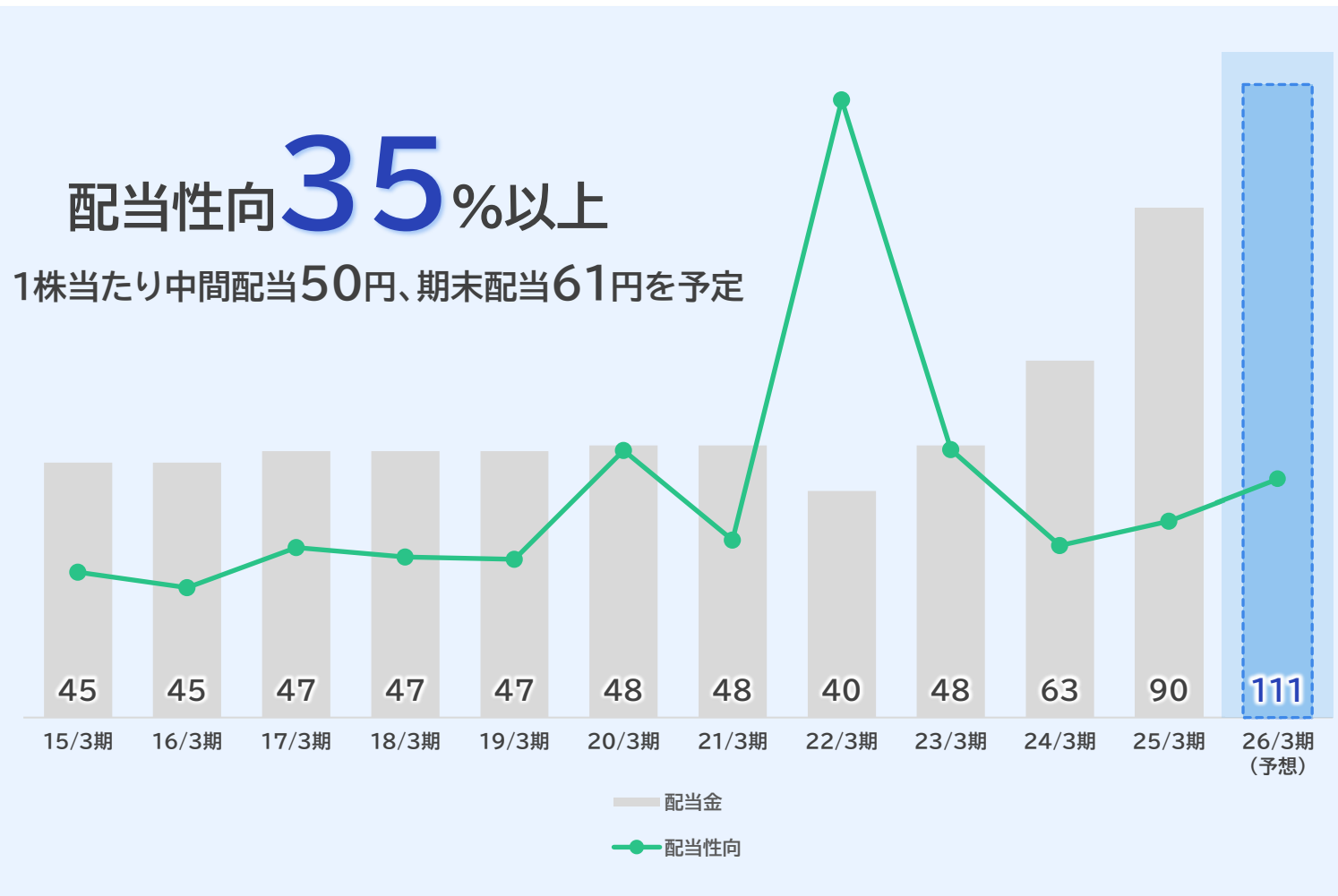
## 株主還元

株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要課題のひとつとして認識しており、安定した配当の継続と、経営基盤の強化に必要な内部留保をバランスよく実施していきます。

この方針を維持しつつ、更なる資本効率の向上と最適な資本配分の実施を進めることで配当性向35%以上の配当を基本方針としております。

### 1株当たり配当金

配当性向 **35%**以上  
1株当たり中間配当50円、期末配当61円を予定



# 目次

## 01 連結業績

P6-12

## 02 セグメント別業績

P13-18

## 03 連結業績予想

P19-22

## 04 中期経営計画の取り組み

P23-29

## 05 参考資料

P30-32

## 中期経営計画の取り組み

## 基本方針



社 是

## 終始一誠意

新しい価値の創造とグローバルな挑戦を行い、  
人々の生活によりこびを与え豊かな社会に貢献していく

- 人・地域・国を結び、繊維の可能性を引き出していく
  - お客様の声に耳を傾け、社会と共有できる価値によって社会とヤギグループの持続的成長を結実させていく
  - 仲間同士がたたえ合い、健康でイキイキと働く環境を構築していく
- 
- ヤギグループの持続的成長の基盤作り
  - 基本方針を実現するための経営基盤の強化策

## 基本戦略

## 事業戦略

- セグメントグループでの収益力強化
- ポートフォリオでの選択と集中

## グローバル戦略

- サステナブル・ブランド・デジタルの3つの視点でグローバル展開

## グループ経営戦略

- グループマネジメントの進化
- グループ内のDX基盤の構築

## 人材戦略

- グループ人材や組織制度の連携強化
- 人材活性化環境の整備

## ESG戦略

- CSV経営の実践
- コーポレートガバナンスの強化



## 中期経営計画の取り組み

基本戦略		取り組み	
事業戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>セグメントグループでの収益力強化</li> <li>ポートフォリオでの選択と集中</li> </ul>	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>セグメント体制が確立したことで、各セグメントの収益力が強化</li> </ul>
グローバル戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナブル・ブランド・デジタルの3つの視点でグローバル展開</li> </ul>	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境配慮型素材ブランドをリブランドした「UNITO project(ユナ・イト プロジェクト)」がスタート</li> <li>海外拠点を開設</li> </ul>
グループ経営戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループマネジメントの進化</li> <li>グループ内のDX基盤の構築</li> </ul>	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク、インフラへの投資により、業務効率アップ</li> </ul>
人材戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ人材や組織制度の連携強化</li> <li>人材活性化環境の整備</li> </ul>	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>人事評価制度の刷新</li> <li>研修制度の見直しを実行</li> <li>表彰制度を新設定</li> <li>グループ横断型研修の導入</li> </ul>
ESG戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSV経営の実践</li> <li>コーポレートガバナンスの強化</li> </ul>	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク管理委員会、サステナビリティ委員会、指名・報酬委員会の設置</li> <li>TCFDに基づく情報開示の実施</li> </ul>



## トピックス | 01

ブランド・リテール

事業戦略



### ヤギグループのWEAVAが基幹ブランド「TATRAS」の国内直営店を新たにオープン

全国に店舗を構える「TATRAS」は2025年秋冬シーズン中、9月5日(金)にオープンした福岡店を皮切りに、9月18日(木)に福屋 広島駅前店、10月4日(土)には仙台店の3店舗の直営店を新たにオープンいたしました。九州地区、広島、仙台それぞれのエリアにて初の常設店舗の出店となります。

これらの新店舗ではTATRASの最新コレクションから人気アイテムまで、本格的な秋冬シーズンに向け豊富なコレクションを展開しております。



マテリアル

事業戦略

グローバル戦略



## テキスタイルを中心とした国際見本市「プルミエール・ヴィジョン・パリ」2025年9月展に出展

当社は、9月16日(火)～18日(木)にフランス・パリで開催された世界最高峰のテキスタイル国際見本市「プルミエール・ヴィジョン・パリ」(PV)に出展しました。PVは、テキスタイル、糸、皮革など6つの分野で構成され、ここで発表されるトレンドは世界のマーケットに大きな影響を与えます。当社ブースでは、グループ会社イチメンと共に、以下の幅広い素材を提案しました。

- ・ オリジナル糸軸をベースとした丸編み生地
- ・ 「UNITO」「naia」などの環境配慮型素材
- ・ 綿・ウール・ナイロンなど、風合いに特徴のある丸編み・布帛素材
- ・ インディゴ染めや近江晒などのクラフト感やヴィンテージ風加工を施した日本独自の素材バリエーション



## トピックス | 03

事業戦略

グループ経営戦略



### 東京エリア 拠点集約プロジェクトがスタート

当社は、2026年3月(予定)に、東京エリアに分散する各拠点を集約し、東京本社を東京都港区の「赤坂トラストタワー」に移転する事となりました。移転の主な目的は、今後のさらなる事業拡大を見据えて、社員の創造性や生産性を高めることです。新オフィスは、最新のテクノロジーを活用した次世代型のワークプレイスであり、社員一人ひとりの働き方を尊重する多様な環境を提供することを目指し、移転に向けた準備を進めています。

移転先：〒107-0052 東京都港区赤坂2丁目17番22号 赤坂トラストタワー

移転時期：2026年3月(予定)





## トピックス | 04

マテリアル

事業戦略

ESG戦略



### ヤギと藍野大学の協働による、卒業で不要になった実習衣のリサイクル推進プロジェクトを開始

当社は、学校法人藍野大学(理事長 山本 嘉人)と協働し、当社が取り組む衣料品回収～再繊維化の仕組みを活用し、卒業により不要になった実習衣をリサイクルして、後輩が実習で使うアルコールや専門器具を入れる医療ポーチとして引き継ぐプロジェクトを始動いたしました。

衣料廃棄が与える環境への負荷について学生の関心・理解を促すことを目的として、本プロジェクトの実施を通じて、実習衣の廃棄削減並びに資源の効率的・循環的な利用を実現する「繊維のサーキュラー・エコノミー」を藍野大学内に確立、カーボンニュートラル・衣類廃棄ゼロエリアの創出に貢献いたします。また本プロジェクトは、今後も継続的に実施し、他の医療系大学への波及・連携も視野に入れて進めていく計画です。

# 目次

**01** 連結業績 P6-12

**02** セグメント別業績 P13-18

**03** 連結業績予想 P19-22

**04** 中期経営計画の取り組み P23-29

**05** 参考資料 P30-32

## サステナビリティの考え方

当社は、「持続可能な企業であるための環境改善」、「持続可能な未来のために環境問題を解決」、「未来のライフスタイルへの提案」、「企業の社会的責任」という4つのミッションステートメントのもと、マテリアリティ(重要課題)の設定と対応を通じて経営戦略を加速させることで、社会とヤギグループの持続的成長を目指しております。





## 17のマテリアリティとSDGs

中長期的な企業価値の向上と持続可能な社会の実現に向けて、17のマテリアリティと取組項目に対し、事業活動を通じて、定めた目標に向けての取り組みを引き続き推進。



ESG領域	課題の目的	重要課題
 環境	サーキュラー エコノミーの実現	① 持続可能な資源の有効活用
		② 産地の活性化
		③ サーキュラーエコノミーの実現
		④ サプライチェーン全体での温室効果ガスの排出削減
	イノベーションの創出	⑤ DXの推進
		⑥ 新技術の研究/開発への投資
		⑦ パートナーシップで業界特有の課題解決
 社会	ワークライフバランスの実現	⑧ 従業員のメンタルヘルスケア
		⑨ 長時間労働の是正
	ダイバーシティ& インクルージョンの実現	⑩ 多様な働き方の推進
		⑪ 人材の多様性の確保
		⑫ 若手社員の働きがいの向上
	女性の活躍推進	⑬ 女性のリーダーシップの機会を確保
		⑭ 女性が働き続けられる労働環境の整備
 ガバナンス	ガバナンスの強化	⑮ コーポレートガバナンスの強化
		⑯ サプライチェーンマネジメントの推進
		⑰ 取引先の人権侵害の防止





## Heritage to the future

### 【免責事項】

本資料には、当社グループに関連する見通し、計画、目標等の将来に関する記述が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において当社が入手している情報に基づき、一定の前提(仮定)と予想を基礎としています。また、本資料の作成に際して依拠した統計等第三者情報の正確性や完全性について、当社は何ら表明および保証するものではありません。

そのため、これらの記述または前提(仮定)は客観的に不正確であったり、将来実現しない可能性があり、将来の見通しと実際の結果は、経済状況の変化、お客様のニーズ及び嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。当社は、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。

したがって、本資料のみに準拠して投資判断されることはお控えくださいますようお願いいたします。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

### お問い合わせ先

株式会社ヤギ 経営企画部 経営管理/IRG

E-mail : [IR\(投資家情報\)に関するお問い合わせ](#)



当社IRに関する、各種開示情報の掲載や事業内容などの最新情報を公式ホームページでも公開しています。ぜひご覧ください。

<https://www.yaginet.co.jp/ja/ir/index.html>

